

小中一貫教育の取組

宇都宮市では、義務教育9年間をひとまとまりとしてとらえ、子どもの発達段階に応じた指導をすることにより、全ての児童生徒の学力向上と学校生活への適応を目指し、小中一貫教育を進めています。本年度行われた小中一貫教育の取組の中から、「乗り入れ授業」と「あいさつ運動」の2つを紹介します。

中学校の先生による乗り入れ授業

「乗り入れ授業」は、中学校の先生が小学校へ、小学校の先生が中学校へ行ってお互いに教えることにより、6年生の中学校での学習に対する不安を解消したり、小中学校の先生が児童生徒の実態に応じた指導をより進めたりできるように行われています。

本年度は、国語・算数・英会話に加え社会・音楽・図工の6教科の「乗り入れ授業」が予定され、これまでに英会話（7月）・国語（9月）・社会（10月）の3教科が行われました。また、12月15日（火）には、中学校の稲川先生が図工の鑑賞の授業を行っていただきました。

初めに、江戸時代初期に活躍した俵屋宗達の「風神雷神図屏風」の掲示資料をもとに、風神と雷神という二人の神様の性格や持っているもの、二人の関係などについて児童に考えさせました。児童は資料をもとに、様々な考えを発表していました。次に、先生は、二人の神様のいる場所やしていること、使われている色や形について考えさせながら、この作品のよさに気付かせていきました。

最後に実物大の「風神雷神図屏風」のパネル資料を児童に見せました。実物と同じ大きさの屏風として置くことで、児童は作品に対して新たな見方をすることができました。

今後の「乗り入れ授業」については、音楽が1月に、算数が2月に行われる予定です。



あいさつ運動

12月1日（火）の登校時（7:45～8:05）に、陽南地域学校園「あいさつ運動」が行われました。この「あいさつ運動」は、陽南地区の小中学校5校（陽南中・陽南小・緑が丘小・横川西小・陽光小）が一体となり、同じ日に「あいさつ運動」を行うことで、児童生徒のあいさつや言葉遣いなどへの意識を高めることをねらいとして行われています。「あいさつ運動」は、年間2回予定されていましたが、1回目は悪天候のため中止となりましたので、この日が初めての実施でした。

陽南中学校からは、本校の卒業生を含め7名の生徒が来校し、南門と東門に分かれて、6年生の児童とともに、登校してくる児童に「おはようございます！」と声をかけてくれました。中学生の元気なあいさつに、登校してくる児童もいつも以上に元気にあいさつをかわし、気持ち良い朝となりました。

今後も、気持ちよい元気なあいさつが続くよう、指導してまいります。



安全で楽しい冬休みに・・・

明日から冬休み。冬休みの過ごし方については、学校でも指導しましたが、ご家庭におかれましても、安全で楽しい冬休みとなるよう、ご指導・ご協力いただけますようお願いいたします。よいお年をお迎えください。

陽南小魅力ある学校づくり地域協議会による2つ活動

「魅力ある学校づくり地域協議会」は、学校やPTA、自治会などの地域の団体、企業等が一体となって、地域の子どもを心豊かでたくましく育てることを目的に、様々な活動を行っています。

今回は「地域協議会」が主体となり、親子で共に活動することで、親子の触れ合いを深めることを目的に実施した2つの活動を紹介いたします。

手作りまんじゅう教室



11月30日(月)の15:00~16:30に、家庭科室で手作りまんじゅう教室を行いました。家庭科室使用のため、定員を親子18組(36名)と限定させていただいていますが、本年度も定員を超える応募があり、上学年を優先し参加者を決定した人気の教室です。

講師は、宇都宮市内の和菓子屋、高林堂社長の和気康匡さんです。まず、和気さんにまんじゅうの形を作るところまでを説明していただきました。説明を受け、小麦粉の団子を平らに丸く伸ばし、それであんを包んでいきます。和気さんは、あっという間にあんをきれいに包みます。子どもも大人も真剣に取り組み、個性豊かな形のまんじゅうが出来上がりました。それから、出来たまんじゅうを蒸し器に並べて蒸しました。

蒸したてのまんじゅうは、あつあつで、甘さもほどよく、みんな笑顔でいただきました。自宅へのお土産もでき、大満足のまんじゅう教室となりました。

親子でまんじゅうを作ることを通して、親子のふれあい、食への関心が深まったのではないのでしょうか。なお、実施に当たっては、宇都宮商工会議所のご協力をいただいています。企画から準備、指導、片付けとお世話になった皆様に感謝申し上げます。



親子工作教室

12月14日(月)の15:00~16:30に、図工室で親子工作教室が行われ、8組17名の親子が参加しました。講師は、「宮のものづくり達人(工作名人)」の坂井勝雄さんです。

坂井さんは、自己紹介の後、ご自身が作られた箱の側面の絵が変わる「からくりボックス」を見せてくださいました。児童の作りたいとの思いも一気に高まりました。

坂井さんの作り方の説明の後、親子で、立方体になるように形を切ったり、立方体の側面になる部分の絵をマジック等で描いたりしました。

側面の絵が変わる不思議な「からくりボックス」が出来上がり、子どもも大人も大喜びでした。

親子で工作することを通して、手先を動かして作ることの楽しさを味わい、親子のふれあいも深まったのではないのでしょうか。

ものづくり達人の坂井さんを始め、企画、準備、片付けとお世話になった皆様に感謝申し上げます。



